

2019年10月1日

研究機関 各位  
研究者 各位

乳 の 学 術 連 合

牛乳乳製品健康科学会議  
乳の社会文化ネットワーク  
牛乳食育研究会

一般社団法人Jミルク

## 2020年度『乳の学術連合』学術研究公募のご案内

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度『乳の学術連合』では、牛乳乳製品の価値向上に繋がるとともに乳を通じて社会に貢献するための多種多様な情報を広く収集・発信することを目的に、「2020年度『乳の学術連合』学術研究」として、一般社団法人Jミルクと共同で、構成組織である「牛乳乳製品健康科学会議」「乳の社会文化ネットワーク」「牛乳食育研究会」の各分野に係る学術研究を下記の通り公募いたします。

つきましては、公募の趣旨および要領をご理解いただき、公募への積極的なご参加ならびに関係者各位に御承引いただきますようお願い申し上げます。

謹白

### 記

#### 1. 2020年度『乳の学術連合』学術研究

組織	分野	研究対象
牛乳乳製品健康科学会議	「牛乳乳製品健康科学」	「牛乳乳製品の価値向上に繋がる医学・栄養学・食品科学・体育学等の分野の課題」に係る学術研究
乳の社会文化ネットワーク	「乳の社会文化」	牛乳乳製品の価値創造、日本・アジアにおける牛乳乳製品の食生活への受容、次世代酪農の可能性等に関する「乳」に係る社会的・文化的な学術研究
牛乳食育研究会	「食と教育」	乳を活用した「食に係る教育の新たな知見」に関する学術研究

## 2. 募集(申請)期間

2019年10月1日(火)～2019年12月31日(火)

## 3. 学術研究公募内容

各分野の公募内容については、別紙1～3をご参照ください。

## 4. 同封物

- ①「牛乳乳製品健康科学」学術研究の公募チラシ(A4)
- ②「乳の社会文化」学術研究の公募チラシ(A4)
- ③「食と教育」学術研究の公募チラシ(A4)

## 5. お問い合わせ先等

詳しい内容は、次のWebサイトから学術研究実施要領をダウンロードしてご確認ください。

<乳の学術連合「学術研究の公募」>

<http://m-alliance.j-milk.jp/koubo/2020/index.html>

### <乳の学術連合>

我が国における牛乳乳製品の消費の維持・拡大及び酪農乳業と生活者との信頼関係の強化を図っていく観点から、牛乳乳製品の価値向上に繋がる多種多様な情報を「伝わり易く解かり易い表現」として開発し、業界関係者及び生活者に提供することを目的とした健康科学分野・社会文化分野・食育分野の専門家で構成する組織(※)の連合体です(一般社団法人Jミルクの外部連携組織)。

(※)健康科学分野の組織 = 「牛乳乳製品健康科学会議」

乳の社会文化分野の組織 = 「乳の社会文化ネットワーク」

食育分野の組織 = 「牛乳食育研究会」

### <事務局・お問い合わせ先>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目1番20号 お茶の水ユニオンビル5階

一般社団法人Jミルク内『乳の学術連合』事務局 担当: 伊藤 岳人

電話:03-5577-7494 FAX:03-5577-3236 E-mail: t-ito@j-milk.jp

以上

## 別紙1

### ◆「牛乳乳製品健康科学」学術研究の公募について（牛乳乳製品健康科学会議）

「牛乳乳製品の価値向上に繋がる医学・栄養学・食品科学・体育学等の分野の課題」に係る学術研究

#### 1. 募集(申請)期間

2019年10月1日(火)～2019年12月31日(火)

#### 2. 募集テーマ・内容

研究テーマ	内容
① 牛乳乳製品が免疫機能に及ぼす影響に関する研究	牛乳乳製品あるいはその成分の免疫機能に及ぼす影響に関する基礎的・臨床的研究。特に、今回は下記2テーマを重点課題として取り上げる ●牛乳乳製品あるいはその成分が腸内環境や腸管機能に及ぼす影響に関する基礎的・臨床的研究 ●牛乳アレルギーの予防・改善に関するこれまでの臨床的研究を体系的に整理し、ガイドライン作成に寄与する実践的研究 キーワード：腸内環境、腸内菌叢、腸管機能、抗炎症、アレルギー、免疫機能調節、免疫指標、自然免疫、免疫寛容、免疫不全、感染防御
② 牛乳乳製品が加齢に伴う栄養代謝に及ぼす影響に関する研究	低栄養(フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム)、過栄養(肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病)、高齢者に特徴的な疾患(認知症など)に関する疫学研究、基礎研究、介入研究 特に、今回は下記2テーマについて重点課題として取り上げる ●牛乳乳製品摂取とフレイル・認知症との関連性 ●牛乳乳製品の摂取が運動による各種の代謝マーカーやバイオマーカーの変化に及ぼす影響 キーワード：フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、認知症、肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、マイオカイン、ホルモン、炎症性サイトカイン、ストレスマーカー、身体活動、QOL
③ 牛乳乳製品に関わる新規探索研究	牛乳乳製品の価値向上につながる牛乳乳製品が健康に及ぼす影響に関する基礎的・臨床的新規探索研究

#### 3. 研究採用数

上記2をテーマとする研究計画の応募申請の中から10件程度を採用する。

#### 4. 応募資格

国内の大学及び短期大学、専修学校、国・地方公共団体の設置する研究所、独立行政法人の研究機関等で学術研究を行っている研究者等(大学院生含む)、またはこれに付随する研究を行っている個人の研究者等とする。

## 5. 委託研究期間

原則として1年を超えないものとする。ただし、研究の内容によっては、最長3年間とするが、1年以上の期間の研究を申請する場合は、全期間にわたる研究計画・支出計画を申請書に明確に記すこと。なお、年度ごとに中間報告を行い、成果が認められない場合は、研究委託を中止する場合がある。

## 6. 委託研究費

年間1件当たり原則として150万円(税込)以内とする。なお、複数年度の研究においては、研究年度×年間委託研究費を上限額とする。

## 7. 選考方法

「健康科学会議」学術研究選考委員会が、必要に応じて各分野の専門家の意見を参考とし、審議決定する。

### <選考委員会>

委員長	折茂 肇 (公益財団法人骨粗鬆症財団 理事長)
委員	上西 一弘 (女子栄養大学栄養学部栄養生理学研究室 教授)
委員	岡山 明 (一般社団法人 適塩・血圧対策推進協会 代表理事)
委員	大日向 耕作 (京都大学大学院農学研究科 准教授)
委員	小川 純人 (東京大学大学院医学系研究科 准教授)
委員	川原 貴 (一般社団法人日本臨床スポーツ医学会 理事長)
委員	桑田 有 (人間総合科学大学大学院 教授)
委員	齋藤 忠夫 (東北大学 名誉教授)
委員	清水 誠 (東京大学 名誉教授)
委員	下条 直樹 (千葉大学大学院医学研究科小児病態学 教授)
委員	中村 丁次 (神奈川県立保健福祉大学 学長)

## 8. お問い合わせ先等

詳しい内容は、次のWebサイトから学術研究実施要領をダウンロードしてご確認ください。

<乳の学術連合「学術研究の公募」><http://m-alliance.j-milk.jp/koubo/2020/index.html>

### <牛乳乳製品健康科学会議>

牛乳乳製品の栄養健康機能に係る学術的エビデンスを研究検証し、研究活動を通じて日本人の健康増進に貢献することを目的として、平成24年3月に設立した健康科学分野の研究者で組織される一般社団法人Jミルクの外部連携組織。

代表幹事 折茂肇(骨粗鬆症財団 理事長)

### <事務局・お問い合わせ先>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目1番地20号 お茶の水ユニオンビル5階  
一般社団法人Jミルク内「牛乳乳製品健康科学会議」事務局 担当:池上 秀二  
電話:03-5577-7494 FAX:03-5577-3236 E-mail: s-ikegami@j-milk.jp

## 別紙2

### ◆「乳の社会文化」学術研究の公募について（乳の社会文化ネットワーク）

牛乳乳製品の価値創造、日本・アジアにおける牛乳乳製品の食生活への受容、次世代酪農の可能性等に関する「乳」に係る社会的・文化的な学術研究

#### 1. 募集(申請)期間

2019年10月1日(火)～2019年12月31日(火)

#### 2. 募集テーマ・内容

##### (1) 特定研究

No.	テーマ	内容
①	牛乳乳製品の価値創造	牛乳乳製品の価値創造に通じる研究。例えば、コミュニケーション革新、ブランディング、地域循環型フードシステム、バリューチェーンに関する研究など。
②	牛乳乳製品の食生活への受容	牛乳乳製品の食生活への受容の歴史、受容の現状と課題、「美味しさ」の感情や記憶の創出に関する日本及びアジア諸国をフィールドとした研究など。
③	次世代酪農の可能性	酪農の持続可能性を探るための社会的・文化的な研究。例えば、酪農生産、フードチェーン、制度・政策、評価手法に関する研究など。
④	持続可能な開発目標(SDGs)の達成への日本酪農の貢献	SDGsの達成に向けて、日本の酪農乳業が取り組むべき課題、飼料自給率の向上や環境負荷の低減、地域循環型フードシステムなどの持続可能性を高める課題に関する研究など。

##### (2) 一般研究

No.	テーマ	内容
⑤	乳及び酪農乳業に関する社会的・文化的視点からの研究	牛乳乳製品の食文化的意義、酪農乳業の歴史及び社会経済的な意義に関する研究など。

注)「牛乳」「乳」とは、食品としての牛乳乳製品を意味する。(「乳」にはヤギ乳・ヒツジ乳を含む)

#### 3. 研究採用数

上記2(1)、(2)をテーマとする研究計画の応募申請の中から8件程度を採用する。

#### 4. 応募資格

国内の大学及び短期大学、専修学校、国・地方公共団体の設置する研究所、独立行政法人の研究機関等で研究を行う研究者等(大学院生を含む)、または特定の機関等に属さない個人研究者とする。

## 5. 委託研究期間

同一研究計画に対する委託期間は、原則として1年を超えないものとする。なお、研究成果を踏まえ研究の継続を希望する場合は、改めて本学術研究への応募申請を行うことができる。ただし、やむを得ぬ事情がある場合には、審査委員会の審査を経て、委託期間の延長を認めることができる。

## 6. 委託研究費

年間1件当たり原則として70万円(税込)以内とする。ただし、海外渡航調査など多額な費用が含まれる場合、100万円(税込)以内とする。

## 7. 選考方法

「乳の社会文化」学術研究審査委員会が、必要に応じ各分野の専門家の意見を参考とし、決定する。

### <審査委員会>

委員長	生源寺 眞一（福島大学 農学群食農学類長）
副委員長	小長谷 有紀（独立行政法人日本学術振興会 監事）
委員	阿久澤 良造（日本獣医生命科学大学 名誉教授）
委員	上田 隆穂（学習院大学 経済学部経営学科 教授）
委員	鶴川 洋樹（秋田県立大学 生物資源科学部アグリビジネス科 教授）
委員	江原 絢子（東京家政学院大学 名誉教授）
委員	大江 靖雄（千葉大学 大学院園芸学研究科 教授）
委員	小川 美香子（東京海洋大学 学術研究院 准教授）
委員	小林 信一（日本大学 生物資源科学部動物資源科学科 教授）
委員	前田 浩史（一般社団法人Jミルク 専務理事）
委員	南山 宏之（株式会社アクサム 代表取締役／ディレクター）
委員	和仁 皓明（西日本食文化研究会 主宰）

## 8. お問い合わせ先等

詳しい内容は、次のWebサイトから学術研究実施要領をダウンロードしてご確認ください。

<乳の学術連合「学術研究の公募」><http://m-alliance.j-milk.jp/koubo/2020/index.html>

### <乳の社会文化ネットワーク>

乳の利用と酪農乳業の発展に関する社会的文化的な研究を通して、わが国乳文化の創造に積極的に貢献することを目的とする一般社団法人Jミルクの外部連携組織。平成24年4月設立。

代表幹事 生源寺 眞一（福島大学農学系教育研究組織設置準備室 教授）

### <事務局・お問い合わせ先>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目1番20号 お茶の水ユニオンビル5階

一般社団法人Jミルク内「乳の社会文化ネットワーク」事務局 担当:伊藤 岳人

電話:03-5577-7494 FAX:03-5577-3236 E-mail: t-ito@j-milk.jp

## 別紙3

### ◆「食と教育」学術研究の公募について（牛乳食育研究会）

乳を活用した「食に係る教育の新たな知見」に関する学術研究

#### 1. 募集(申請)期間

2019年10月1日(火)～2019年12月31日(火)

#### 2. 募集テーマ

##### (1) 特定研究

No	テーマ	備考
①	「乳」に係る教育的プログラムの開発と検証研究	キーワード：ヘルスリテラシー向上、食文化の発展、乳特有の教育的価値との関連、新学習指導要領との関連、災害支援と食選択 など
②	「乳」の生産・製造・流通等に係る教育的プログラムの開発と検証研究	キーワード：酪農教育ファーム活動、牛乳工場見学と教育活動の連携、牛乳のサプライチェーンを通じた価値や特性 など
③	SDGs達成に求められる資質・能力の考察とそれに係る「乳」の教育的プログラム開発と検証研究	キーワード：豊かな社会づくり、環境配慮、食品ロス削減、地域循環、多様性、国内及びグローバルな食料問題 など
④	「乳」に関わる学校給食の教育的意義や栄養的・文化的価値に関する研究	キーワード：栄養バランス、社会性の教育(社交性、協同の精神、生命尊重、環境意識、生産者への感謝など)、科学的で文化的な食選択、海外(特にアジア)との比較など

##### (2) 一般研究

No	テーマ	備考
⑤	「乳」に関する教育的視点からの研究	補足：「特定研究」以外のテーマで学校・園(幼・保、小・中・高・大)、家庭、地域、社会、企業などにおける教育の場を活用した研究。

なお、「乳」とは、「食品としての牛乳乳製品やそれを生産流通する産業としての酪農や乳業など」であり、全てのテーマは「乳」に係る研究である。また、「教育」とは、家庭教育、学校教育、社会教育などである。

#### 3. 研究採用数

上記をテーマとする研究計画の応募申請の中から 4.応募資格に記載のある 7 件程度を採用し委託する。

#### 4. 応募資格

国内の大学及び短期大学、専修学校、国・地方公共団体の設置する研究所、独立行政法人の研究機関等で学術研究を行っている研究者等(大学院生含む)、またはこれに付随する研究を行っている個人の研究者等と

する。

## 5. 委託研究期間

同一調査・研究課題に対する委託期間は、1年単位とし、原則として1年とする。ただし、研究テーマによって複数年の研究が必要な場合は、その限りではない。申請書に全体の研究計画の概要の他、各年の研究計画の概要がわかるよう記載すること。なお、複数年の場合には収支及び研究の中間報告を毎年実施する。

## 6. 委託研究費

年間1件当たり原則として70万円(税込)以内とする。ただし、海外渡航調査など多額な費用が含まれる場合、100万円(税込)以内とする。

## 7. 選考方法

「食と教育」評価委員会が、必要に応じて各分野の専門家の意見を参考とし、審議決定する。

評価委員<審査委員会>

委員長	角屋 重樹 (日本体育大学教育研究科 研究科長)
副委員長	木村 純子 (法政大学経営学部 教授)
委員	石井 雅幸 (大妻女子大学家政学部児童学科 教授)
委員	木下 博義 (広島大学大学院教育学研究科 准教授)
委員	児玉 浩子 (帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科 教授・学科長)
委員	田中 博之 (早稲田大学教職大学院 教授)

## 8. お問い合わせ先等

詳しい内容は、次のWebサイトから学術研究実施要領をダウンロードしてご確認ください。

<乳の学術連合「学術研究の公募」><http://m-alliance.j-milk.jp/koubo/2020/index.html>

### <牛乳食育研究会>

乳の特徴を活用した食と教育の研究活動を通して、豊かな食体験及び総合的な食知識の習得、食に対する健全な態度の育成及び適切な食選択能力の向上などの教育的な取り組みをもって、生活者が生涯を通じて心豊かで健康的な生活を実現することに貢献することを目的とする一般社団法人Jミルクの外部連携組織。平成24年10月設立。

代表幹事 角屋重樹(日本体育大学教育研究科 研究科長)

### <事務局・お問い合わせ先>

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目1番20号 お茶の水ユニオンビル5階  
一般社団法人Jミルク内「牛乳食育研究会」事務局 担当:大淵 俊  
電話:03-5577-7494 FAX:03-5577-3236 E-mail: s-obuchi@j-milk.jp